



日本女子体育大学  
**Dance Letter** Vol.38



## SHOWCASE2020夏



## A1クラス 1年 荒木理彩

憧れていた日本女子体育大学の初舞台。クラス全員で踊ることのできる最初で最後の舞台。私たち新一年生にとって、とても大切な舞台。それがこのSHOWCASE2020夏でした。新型コロナウイルスの影響でステージに立つことができず悔しい想いもありますが、映像作品という形でSHOWCASEに出演できたことに感謝します。

大学一年生、小さな星のような個々の煌めき。その18の光が集まり1つのカタチが形成されました。まるでA1という星座のように。入学前はそれぞれ異なる場所でダンスに向き合ってきたA1クラスの18人が、初めて一つの目的に向かって結束しました。

しかし、数少ない対面授業のみでの関わりのため、仲を深めるにも手探りで、仲間意識を持つまでに時間が必要でした。さらに、振付者である母のお二人とお会いしたのが数回という現実。追い打ちをかけるように、慣れないオンラインでの振付指導やリハーサルが始まり、戸惑いと不安を抱えたままの本番撮りとなりました。そんな新鮮さも含めて、この時代らしい、新しいSHOWCASEになったと思います。

ダンスへの意識が高く努力を惜しまないA1メンバーと、素敵な母のお二人に巡り会うことができ、私は本当に幸せです。日本女子体育大学ダンス学科に所属できたことを心から誇りに思います。



## A2クラス 1年 上瀧あかり

新型コロナウイルスの影響で、オンラインの授業を受けていた中、今回のSHOWCASE作品は私たちがニチジョ生として参加することのできた初めての作品でした。舞台上でクラス全員の呼吸を合わせて踊ることができないというのは衝撃的で不安な気持ちを覚えました。しかし、先輩方とのオンラインでのミーティングやレッスン、フィードバックを通して、踊りたいという気持ちと楽しさが日々大きくなり、必死に練習に取り組みました。

完成した作品を含め、映像を通して、自分自身やクラスメイトの踊りを見る機会が今まで以上に増えました。「自分らしさ」を模索している私にとって、個性あるメンバーの踊りは大きな刺激となり、明確な課題も見つかりました。今後も、人との違いを恐れず、向き合うことで、「自分らしさ」を追求していこうと思います。

このような状況の中、私たち一人一人に目を向け、素敵な作品を作り上げてくださった先輩方に、心から感謝いたします。一日も早くステージに立てる日が来ますように。



## A3クラス 1年 島菜々子

4月に入学してから約2か月、ようやくA3の皆と顔を合わせることができた時に初めて今年は例年とは異なる形でのSHOWCASEとなることを知りました。私自身、映像作品の制作をするのは初めてだったので、最初は一体どんなふうに進めていくのか、撮影は、発表の仕方は、など様々な不安がありました。それでも、先輩方が工夫をして練習を進めてくださったおかげで、対面で練習を行うことができた人、オンライン上でしか行うことができなかった人と形式は様々でしたが、それぞれが楽しく、一生懸命取り組むことができました。各自撮影した断片的な映像たちが集まった時どんな作品に仕上がるのか、私は全く想像することができませんでした。でき上がった作品は、何度見返しても飽きないほど素敵でした。ニチジョに入学して初めての作品ということもあり、とても嬉しかったです。「まさらないま」に自分だけの色を。」という先輩方からのメッセージを受け、ニチジョでの4年間の学びのスタートラインに立った私はより勉強に励み、ダンスを自分だけの色に染められるよう精進していこうと思うことができました。今回振付・編集をして下さった橋本さんと金子さんには本当に感謝しています。



## B1クラス 1年 長谷部弥久

私は入学前からSHOWCASEというイベントをすごく楽しみにしていて、クラスのみならず舞台上で踊ることに憧れていました。ですが、今年のSHOWCASEは新型コロナウイルスの影響で例年とは異なったビデオ作品という形で行われました。前期授業もオンラインになり、SHOWCASEはどうなるのだろうと思っていた時の知らせだったので、仕方ないという気持ちもありましたが、それ以上にとても残念で悔しい思いでいっぱいでした。最初はビデオ作品をネガティブに考えていましたが、今しかできない経験があると前向きに捉えて臨んだ事でとても楽しい制作期間になりました。振り付けや演出をして下さったちいさん、葉月さんのお二人はとても優しい方々で、全員で集まって練習する機会が少ない中、リモート練習でも丁寧に教えてくださいました。ビデオ作品ならではの強みを活かした演出が多々あり、作品制作中はワクワクが止まりませんでした。自粛期間内、まだ知り合っていないクラスメイトと共に制作していくことは不安だらけでしたが、この作品をきっかけにクラス全員とお二人と協力し合い、みんなの心が一つになれたと思います。いつかB1全員とお二人と舞台上で踊りたいです。



## B2クラス 1年 濱田寿音

こんにちは。B2の濱田寿音です。私のクラスの母はshionさんとmeguさんです。最初にお二人にお会いしたのは6月の教養演習の授業の時でした。その時、自分はこれからあのSHOWCASEが始まり、初めて振り付け者の先輩に会うと思うとワクワクが止まらなかったのを今でも覚えています。そしてお二人が現れた時、オーラと服装に度肝を抜かれました。この話はB2のみんなでも時々します。見るからに優しくて美しい花のようなmeguさん、第一印象は怖く見えたけど何もかもセンスが飛び抜けていて格好いいshionさん、このお二人を見てさらに楽しみになりました。それからいよいよ待ちに待った練習が始まりました。とは言いつつ今までとは違い、コロナの影響でほとんどがオンラインでの練習となりました。SHOWCASEができていだけでもありがたいことは分かっていたのですが、やっぱり寂しい部分もありました。オンラインで練習をするたびお二人の近くで教わりた、みんなと練習がしたいという気持ちが強くなっていきました。でもその一方、練習を重ねるたびにお二人の偉大さと優しさに気づき、B2のみんなの暖かさや凄さにも気づいていきました。最後のリハの時、これから舞台上で発表するようなワクワク感と終わって欲しくない寂しさが凄く心にありました。撮影が終わって、自分の踊りに悔しい部分もありましたが、でき上がった作品を見てそんなことは一気に吹っ飛びました。逆にその悔しさをバネにしていこうと思いました。本当にB2の一員としてSHOWCASEに関われたことを奇跡に思います。いつかshionさんとmeguさんと同じ舞台上に立てよう頑張っていきます。いい作品を作ってください本当に感謝でいっぱいです。B2を代表させていわせていただきます。本当にありがとうございました。



## B3クラス 1年 宮澤エミ

大学に入学し始めての作品が映像作品となり、うまくいかないことが多々ありました。初めての振り入れをオンラインで行ったときには部屋のスペースがなく、思うように動けないということや自分の動き、形が合っているのかわからずとても不安でした。

実際に対面で練習を行って初めて正しい角度、形やリズムの取り方がわかり、みんなと一緒に練習することで上手な人の動きを見ることができたのでとても勉強になり、安心感があると同時に、やはりみんなと踊るのはとても楽しいと感じました。

先輩方が振り付けをしてくださった作品は映像だからできる演出や振り付け・構成があり、自分で踊り、撮っていたときはまだどのようになるのか想像もつかず、ただ1人で淡々と踊るのは少し寂しく思いました。しかし完成した作品の映像を見たとき、みんなで同じ時間、同じ場所で練習を積み上げた場合とは違ったパズルが完成したような達成感があり、嬉しかったです。

ばらばらだった1人1人の素材が合わさり、衣装はとてもシンプルでしたがとても鮮やかで面白みのある楽しい作品になっていて感動しました。

このSHOWCASEは私にとって、とてもいい経験そして思い出になりました。



# SHOWCASE2020夏 振付者

## A1クラス振付 3年 市川茉幸 桑原希世美

本年度のSHOWCASEはマイナスからのスタートでした。未だ猛威を振るう新型コロナウイルスのため、これまで通り舞台上で踊ることはもちろん人と触れ合うことすら難しくなった今、映像として作品を残すという方法でのSHOWCASEとなりました。

顔合わせは教室で数回、対面での練習は一度もできず全てリモートで行い、悔しい思いとの葛藤に明け暮れる日々でした。これまで考えてきた企画も大幅に変更し、今だからこそできる作品に作り変えました。決して状況や環境は良いとは断言できませんが、かえってそれぞれが自分のペースでダンスというものに触れて考えることができるいい機会だと思い、一年生にはこの状況を楽しむべきだと伝えました。振付にとらわれず、与えた振りをどう発展させていくか、一年生と振付者でリモートを通じて練習を重ね、それがコミュニケーションを深める良い機会に繋がったと実感しています。

厳しい状況ではあったものの映像作品という形でSHOWCASEを行うことができ、お忙しい中全面サポートして下さった先生方には感謝しております。映像作品という形態が新しいSHOWCASEを先駆ける一歩になれば嬉しいです。これからの一年生の成長とともに私たち三年生もレベルアップした作品を作り出していけるように日々研究を重ねたいと思います。



## A2クラス振付 3年 仲里知華 横山さくら

今年のSHOWCASEは例年とは異なり、舞台上での開催ではなく、映像作品を創りました。新型コロナウイルスが流行っている中でのイベントだったため、作成に当たって多くの制限があり、どのように進めていけばいいのか不安がたくさんありました。密になることが許されないため、対面での練習が難しいということに関して1番不安が大きかったです。オンライン上で振り入れをし、みんなの練習動画を自宅でも撮影してもらって、それに対して文面でフィードバックをするという流れでやり取りをしていました。画面越しや文章でしか指導ができないという状況は初めてだったため、多くの発見や学びがありました。私たちの指導に対してしっかり期待に応えようと励むA2クラスのみんなの姿勢にとっても感動しました。このような状況で作品を創り上げることは、振り付け側とダンサー側が同じ気持ちで協力しないと成り立たないと思います。A2クラスのみんなの協力のおかげで作品を創り上げることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。初めてのことはばかりで不安もありましたが1つの作品を創り上げることができて本当にいい経験になりました。このような状況でもSHOWCASEという機会を作ってくださった先生方にもとても感謝しています。



### A3クラス振付 3年 金子沙矢 橋本美優

本来ならば多目的ホールでの公演ができるところを、今回は感染症の影響で映像作品としての発表になってしまい、始めこのことを聞いたときには、驚きが隠せませんでした。まだ映像作品を創ると言うことにすら慣れていないのに、舞台上でやりたいことを映像に収めるということが果たしてできるのか、不安が続く毎日でした。

オンデマンド型や、リアルタイムでのオンラインリハーサルでの振り入れには、なかなかやりづらさも感じました。一度だけ対面のリハーサルを行うことができましたが、同じ空間でダンスを共有できるありがたみをひひしと感じました。動画の編集も振付者同士で話し合いながら行い、1年生それぞれの個性がよく表れていて、すっきりと見やすい映像作品となったのではないかと思います。

例外だらけのSHOWCASEとなってしまいましたが、今回の経験が私たち、そして1年生の今後の舞踊生活に何かしらの形で生きることを願っています。このような状況の中でも頑張ってくれた1年生と、最大限の協力をしてくださった先生方、助手の皆様にも心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



### B1クラス振付 3年 浅倉智尋 飯塚葉月

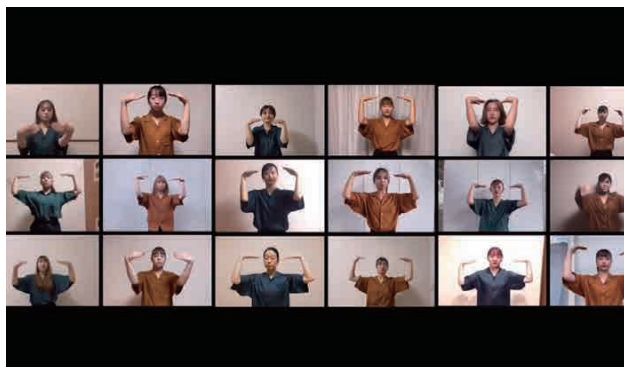
このSHOWCASE期間、色々制限の多い中でしたがなにより1年生に楽しんでもらうことを第一に考え日々取り組んできました。

初対面の時、皆がマスク越しでもわかるようなキラキラした顔や本当に今日初めて会ったのかというくらい皆の仲良さそうな様子を見て、安心しました。同時に、私たちの創りたい作品にピッタリなクラスだと思いました。

例年のように1年生と関わる時間が少なく、コミュニケーション面で不安がありました。皆が送ってくる動画一つ一つにも個性が溢れ出ていて、編集がとても楽しかったです。私たちの作品はその個性を大切にしようと思っていたので、あえてNGも送ってもらいNG集も作品内に取り入れました。それもこのクラスだからこそできたことだと思います。

練習を進める上ではオンライン上で1年生にどう振りを上手く伝えられるか、負担をかけるないようにするにはどうしたらいいかなどを考えさせられる、普段できない貴重な経験ができました。

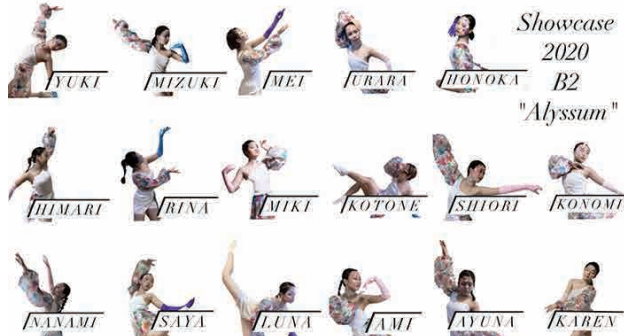
今回、1年生振付としてSHOWCASE夏に関わらせていただき、構成で魅せられない分、どう編集をしたら踊りが見えるのか、どのような振りだと全員の踊りが揃って見えるのか、このような環境でも1つの作品を作り上げられるということを今回のSHOWCASEで学びました。1年生とも限られた中でしたがこのような形で関わられて本当に良かったです。そして、このクラスの担当になれて本当に幸せでした。まだまだこの状況が続くと思いますが、今回の映像作品作りの進め方で沢山のことを学びました。今後に活かしていきたいと思います。素敵な経験をさせて頂き、ありがとうございました。



### B2クラス振付 3年 下田恵 角田詩音

今回の作品制作において、大きな課題としては1年生と直接会ってのコミュニケーションは取れず、オンラインでのリハーサルを行い、本番も各自離れた場所で行うということでした。そのため普段からクラスのみならずとより多くの連絡を取り、離れていてもみんなで1つの作品を作っていると感じ、お互いの共通理解を深めるようリハーサルを進めていきました。また、映像作品でありながらも、舞台上で行う時となるべく近い状況、モチベーションで取り組めるよう、衣装やメイクにもこだわり、撮影日を決め、みんな同時に撮影に挑みました。

最初はこの状況でのSHOWCASEに対し悲観的に捉えてしまうこともありましたが、クラスのみならずの頑張りや先生方、ご家族のご協力もあり、この状況だからこそできることを探し、楽しんで、新たなチャレンジに向かい前向きに取り組むことができました。この経験を通してこれからの舞台芸術が変わっていくことについて考える新たな一歩になり、自分が今置かれている状況の中にもたくさん可能性があるということを実感しました。このような状況でもSHOWCASEで作品を作らせていただけたことに感謝し、今後の舞踊活動に活かしていけるよう頑張ります。



### B3クラス振付 3年 伊藤奏 渡辺裕香

私は一年生の頃からSHOWCASEの振付者になることを目標にしてきました。今回振付という形でSHOWCASE、一年生と関わることができてとても幸せに感じます。映像という形になり、普段とは違うことを求められるため、戸惑う部分もありましたが、一年生の協力や相方の渡辺の力を借りて、思い入れのある作品ができたと思います。この作品を通して一年生には自分に自信を持って欲しかったし、このような状況だからこそ踊りの持つ力を伝えていきたいと思いながら作品を作りました。関わってくださった全ての人に感謝したいです(伊藤奏)。

今回SHOWCASEが例年と全く違う形となったため、振り付けをする際に初めてのことが多くとても苦戦しました。映像作品として作品は完成したものの、1年生を初舞台に立たせてあげたかったという悔しい気持ちはどうしても拭いきれない部分はありますが、作品が完成して1年生に動画を見せたあと、B3の子達に母で良かったと言われた時に、私もSHOWCASEの振り付け者として1年生の作品を作ることができたという実感がものすごく湧きました。たくさん協力して、私たちについてきてくれた1年生には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。それと同時に、このような形でSHOWCASEを実行するにあたり様々な対策や提案をくださった先生方、期間中共に支え合った同期のみんな、そして一緒に作品を作ってくれた伊藤にも感謝しています。いち早くみんなと舞台上に立てる日が来て欲しいと思います(渡辺裕香)。





スペイン舞踊2 4年 野田百華

スペイン舞踊は3年生の後期にも受講しており、東先生の授業を通してスペインの文化や人柄に触れ、もっと知りたいと感じたため4年生でも受講しました。つま先とかかと部分に釘が打たれた、5cmほどヒールのあるフラメンコシューズを履いて力強く踊ることは非常に難しいテクニックでしたが、授業を通して段階的にレベルアップしながら教えてくださいのため、最後のテストでは全員がステップをしっかりと踏んだ上で自分なりの表現をしていて、観客になった気分で観ているほうも心躍りました。スペイン舞踊の特徴として、踊り手が先行して流れを作り、ギタリストやハレオ(掛け声)、パルマ(手拍子)、もちろん観客もその場にいる全員をくまなく引っ張っていきます。その一体感こそが魅力であり醍醐味だと私は感じました。そして東先生のお見本は圧巻です。

こうして多様なダンススタイルを授業の一環として学べるのもニチジョウの素晴らしいところです。多様な知識や技術を身につけ、自分の表現の在り方を見出すことも、新しい選択を手にもすることもできます。どんなことがきっかけになるかは分かりませんが、学生生活も残り僅かですが、最後まで多くを学びたいです。ありがとうございました。



野外上演法 2年 中村絵梨香

このような状況で、今年は例年と違う形での野外上演法になることがわかった時は、初めての取り組みにとっても不安になった。最初はオンラインでスタートし、自宅ですることを最大限行い、撮影、編集をして2分程度の作品をクラスで作成した。例年の野外上演法とは全く違い、野外でもなく、映像作品としてしかできていなかったこの授業も、対面授業の開始と同時に登校して良いことになった。しかし登校して残り数回の授業の中、全員で6分ほどの作品を作ることは時間の面でも感染対策の面でも不可能だった。そこでどのように今年の野外上演法を行うか、リーダーをはじめとして、みんなと相談した。直接会って相談したり説明したりができなかったため、うまくいかないこともあったが、最終的にはグラウンドで撮った映像を編集することにした。毎週外で撮影を行うため天候に左右され、思うように進まないこともあったが無事に全て撮影して、編集を終える事ができた。例年とは全く違う形だったため、「2019Bらしい、2019Bにしかできないもの」と思って進めていたが、私たちがらしく完成させることができたと思う。映像として今後も残るため、これからたくさんの方に観ていただけたら嬉しい。



タップダンス 1年 片山葉月

多くの場面で華を添えるタップダンスへの憧れと興味をきっかけに、この授業で初めてタップダンスに触れました。タップシューズを履くのも初めてで、音を鳴らす感覚が非常に新鮮で魅力的でした。授業では、バーレッスンをはじめとした基礎的な体の使い方から学びました。体幹の強さや体重移動の素早さの重要性と共に、バレエやジャズダンスなど他ジャンルとの強い繋がりを肌で感じました。タップダンスの楽しそうなイメージとは一変、ステップの習得は想像以上に難しく、毎回大きなやりがいを感じました。終始先生の楽しく温かな雰囲気にも包まれながら新しいことに挑戦でき、非常に充実した時間だったと感じます。

私はこの授業を通して「踊りと共に音を創る」とこの楽しさに気づきました。自分の体から音を作り出して表現し、仲間達と音が揃い重なり合う瞬間は今までに味わったことのない喜びでした。そしてここで感じた喜びそのものもタップダンスには欠かせないものなのです。この感情を視覚にとどまらず聴覚にも訴えることができるこそ、タップダンスの醍醐味であり最大の魅力だと思います。多くの学びと気づきが詰まったこの授業に感謝すると同時に、この経験を基に自分を豊かにしていけるよう努めていきたいです。

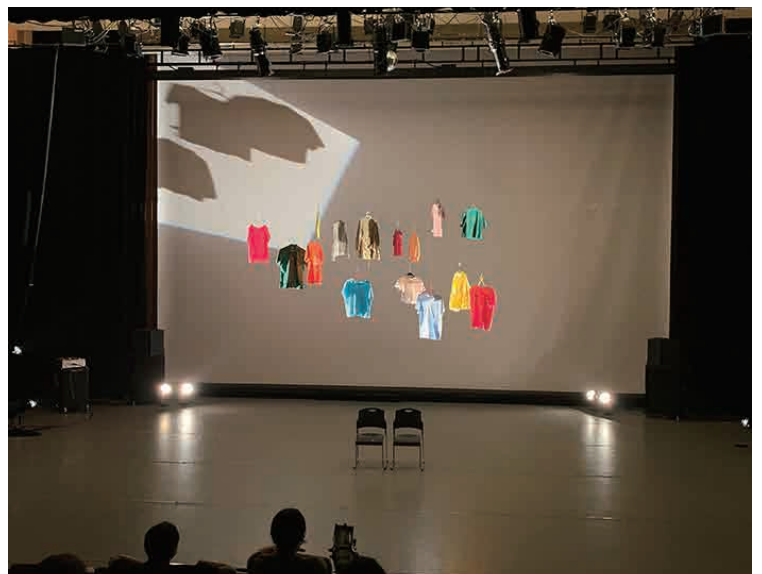


ダンスカレントA 2年 横山未弥

8月25日から28日までの4日間、ダンスカレントAの集中講義が行われました。この集中講義は、学生の有志による作品を受講生が無音で見て、それに照明や音響などの舞台技術をグループに分かれて演出し、発表するというものです。

まず、前半の2日間では舞台技術のプロである照明の宇野敦子先生と音響の青木タクヘイ先生による講義を受けます。講義では、照明・音響それぞれの作品への効果についてや、機材の使い方について学びます。3日目以降は、前半で学んだことを元に実際に音や光を作り、発表に向けて作品に仕上げていきます。受講生の中には機材に触るのは初めてという人も多く、私自身もほとんど初めての状態だったので、グループ内で話し合ったイメージを舞台上に形にすると、なかなか思うようにいかず苦戦しました。しかし、機材を自由に触ることが出来るのは貴重な機会なので、色々試行錯誤して納得のいく作品に仕上がったと思います。この講義では同じダンス素材を2つのグループがそれぞれ演出するのですが、作品発表を見ると場面の切り取り方や動きの捉え方が全く違って、とても面白かったです。

この講義で学んだことを、これから作品創作をする際にも生かして表現の幅を広げたいです。



## ダンスカレントB 4年 窪田夏朋

ダンスカレントB では、トムソン啓子先生によるリモンテクニックを学びました。今年度はコロナウイルスの影響で先生が来日することができず、オンラインでの講義となりました。

先生に用意していただいた映像講義を用いて、基本となる動きや身体全体を使った表現について学びました。身体を引っ張るようにして緩急をつけるサスペンションやオポジションなど、身体を動かすときに意識すべき点を改めて考え実践する機会となりました。その他には貴重な過去作品の映像や文献のリーディングで理論やホセ・リモンについても学びました。

学んだ内容はペアで動きを確認し合ったり、ダンスジャーナルとして報告書にまとめ、リモートで先生にアドバイスをいただいたりしました。

最終課題では創作を含む作品の実技を録画して提出し、先生から個別でメッセージをいただきました。私は何気ない動作のとき顔が硬いことなどを指摘してもらい、自分の踊りを見つめ直す良いきっかけとなりました。先生には海外からにも関わらず、早朝や夜遅くでも対応していただき、私たち学生に手厚くフォローくださったことをとても感謝しています。

今回はやむなくリモート開催となり不自由な部分もありましたが、映像講義を何回でも見返すことができ自分のペースで進めやすいなど、リモートならではの良い面も感じることができ充実した集中講義となりました。



## 舞踊学演習(テクニック&レパートリー) 4年 内堀愛菜

まず、この度は世界中が混乱しているコロナ渦の中で、授業を開講してくださった、平山素子先生、本学の関係者の方々に御礼申し上げます。

私はこの講義を受講して、小さな挑戦の価値を改めて感じる事ができました。普段何気なく行っていたウォーミングアップでの身体作り、テクニック練習に対して、結果ばかりを見ていました。もちろん、「身体がこのようなったら良いな」、「こんな感じで綺麗に脚を上げられたらいいな」、「この瞬間にもう少し高くジャンプが跳びたいな」とビジョンを描きながら練習を行うことも必要不可欠な要素だと思います。しかし、それらを実行するためのプロセスや、日頃の身体作りに向き合っていたようで大して向き合っていないということを受講して気づきました。`高さを求めてなんとなく上げていた脚、から`高さを出すために、助走を自分の中で理解し、タイミングよく上げる脚、では一見、同じように見えたとしても完成度が全く変わります。さらに、その後の動作への影響も変わることを実感しました。このような小さな積み重ねが、結果としてのびしろをつくり、向上し続けることに繋がるのだと思います。

平山先生は、これらのことを私達に`挑戦、`として、講義の中に組み込んで下さりました。深刺とした先生の笑顔と声に、ドミになりながら踊り続けたことは、私の中で何か一つギアチェンジが行われたような気がします。

このような状況下でも、踊ること自体を制限されていない現代は、踊ることを制限されていた過去の歴史に比べ、幸せなことだと思います。今だからこそ踊る事の真意を自分に問いただし「これからも踊ろう」と一歩踏み出すことができた講義でした。



## 現代の舞踊論 3年 藤原玲央

8月31日から9月3日まで、「現代の舞踊論」の集中講義を受けました。そこで学んだのは、思考する身体の芸術と呼ばれる、コーポリアルタイムというものです。これは役者のための身体の動きであり、講師の巢山先生は日本におけるコーポリアルタイムの第一人者です。

私はもちろん、周りの誰も知らないジャンルの動きであり、初めて動きを見せていただいた時の衝撃は忘れられません。先生の人間離れた精密な動きを前に、自分たちはこの動きを集中講義の短い期間で習得できるのか、不安しかありませんでした。

空間での人の立ち位置から受ける印象の違いを学ぶことから授業は始まり、コーポリアルタイムの基礎的な動きを学んだ後、実際にその動きを使った短い作品の練習を行いました。またコーポリアルタイムの簡単な歴史や特徴も学び、最終課題はグループでそれぞれの作った動きを組み合わせることでコラージュ作品を作ることだと発表されました。初めての動きに戸惑いも多く作品になるのか不安でしたが、意見を出し合って作り上げることができました。

最後に巢山先生にはコーポリアルタイムだけでなく、芸術に関わる人間としての心構えも教えていただきました。ありがとうございました。

## ボディ・コンディショニング 2年 遠藤碧海

講義を受け、意識することのない日常の運動に対してさまざまなことに気づきました。ベルトを腰に巻いて歩く実験は面白かったです。ベルトを1本巻くだけで、その部分に意識がいき、筋肉の動きがよくわかりました。普段は歩くことに対して何も考えていませんが、身体全体の骨、筋肉を動かしていることを再認識しました。私は講義の内容をイラストに描いてまとめました。使う筋肉の位置をイラストにすることによって客観的にも理解できました。

ジャイロキネシス®は負担が少ない動きで、自宅でも簡単にできます。椅子に座ったり床に寝たりする状態で行うエクササイズは新鮮で、筋肉、呼吸、重心などに意識が集中できました。

今回はコロナ禍でオンデマンド形式での受講となり、正しい動きができるのか不安な面もありましたが、見て動くというより自分の骨格や筋肉を意識しながら動くので問題ありませんでした。でも、エクササイズは一緒にやる人がいた方が楽しいだろうなと思いました。

講義はパフォーマンス向上に有意義でした。日によって身体感覚が違うこともしっかり実感でき、身体との向き合い方を知ることができました。筋肉は鍛えるだけではバランスが偏るので常に整えていこうと思います。



### フォークダンス 3年 小泉結佳

この授業は教員免許を取る人が一般的に履修する科目です。授業内で教わることは授業名の通りフォークダンスです。様々なフォークダンスに触れて、教員となったときに授業で行うことのできるボキャブラリーを増やすことができます。しかし私は教員になるつもりはなく、ただ単純に学びたいと思い「フォークダンス」を履修しました。フォークダンスには、男女でのペアダンスなど、日本にはない文化が多く盛り込まれています。そこに嫌悪感を抱く人も多いと思います。しかし、フォークダンスを踊ることで、他者との一体感、全体との一体感、深まっていく相互関係など、自分以外の誰かを感じ取ることができます。そしてそこには言葉は存在しません。相手とのアイコンタクト、そして踊りを踊っていく中で身体を通して相手とコンタクトすることに、言葉以上の関わりがあるのだと思います。

昨今のコロナ渦という状況で、例年とは違ったスタイルで行われた授業ですが、たくさん学びがありました。自らも先生の希望でフォークダンスを教えるという経験をさせてもらいました。私にとって価値のある四日間でした。



### 表現運動学(演技) 3年 竹内愛

8月4日から7日にかけての4日間、桐山知也先生による「演技」の集中講義を受講しました。講義初日は受講者全員で円になり1人ずつの自己紹介をした後、二人組になって相手の立ち姿の特徴を見つけて真似をするということをしました。また、立ち姿だけでなく歩き姿も真似することになり、誰かをここまで観察したことがなかったのですが特徴を見つけるまでじっと観察をして、その特徴を自分の身体で表すにはどうやって動けばいいのだろうと考える時間が楽しかったです。

二日目は「街で見かけた特徴的な動きをする人を見つけて真似する」という課題が出て、各々で見つけた特徴的な人の真似をする姿を見て、「この職業の人ってこんな動きよくするよな〜」や「こんな人いるいる!」と発見がたくさんあり面白かったです。こうした些細な動きや何気ない仕草を真似することの延長線上に「演技をする」という事があるのかなと思いました。真似することで学ぶことがあり、演技をする上で大切なのは観察をするということなのだと思います。

講義三日目では、時代が変わることに変化していく演劇の形を知る事ができ、舞踊のあり方が変化すると同じように演劇も変化し続けているのだなと思いました。最終日にはグループに分かれて演技発表をしたのですが、同じ課題に取り組んだはずなのにでき上がった作品の雰囲気や世界観がそれぞれに違って面白かったです。

ダンサーという括りを飛び越えて表現者として過ごせた4日間はとても刺激的で楽しかったです。

## 部活動・サークル活動

### ダンス・プロデュース・研究部(水と身体) 2年 金子美月

校舎の建て替えに伴い旧プールが壊されることになりました。そこでダンプロでは最後の思い出に「水と身体」を行いました。これまでも5回行われてきましたが、私は水を張った空間で踊るのが初めてで、応募した時からドキドキしていました。

結局、プールにいっぱい水を張ることは叶いませんでした。そこで、ホースで水をまいて床を水浸しにして踊ることとなりました。いつもとは踊る感覚が違い、また水面を滑るなど普段できない動きができて面白かったです。先輩方の作品は水風船や花火を使うなど見ていて楽しく、また小野塚さんの「瀕死の白鳥」は本当に綺麗で、夢中になって楽しみました。旧プールの中は本当に暑く外に出た方が涼しいくらいでしたが、みんなで頭からずぶ濡れになってはしゃぐのは暑さを忘れるほど爽快でした。記念写真を撮る際には、見に来てくださっていた深代学長まで水をかぶって大盛り上がりでした。松澤先生と高野先生のデュオ作品も素晴らしかったです!

コロナの影響で発表の場が減る中、思いっきり踊れて本当に気持ち良かったです。同時に、広い場所で踊ることができるありがたさも実感しました。またどこかで「水と身体」ができる日を楽しみにしています。



## 主将座談会 ～コロナ禍での部活動について～ 各部活動主将



主将座談会 2020年9月21日(月)放課後 S201にて

舞踊部: 桑原希世美(桑)  
ソングリーディング部: 清水里香(清)  
ダンス・プロデュース研究部: 平賀梨乃(平)  
モダンダンス部: 山崎ののか(山)  
競技ダンス部: 岡野未来(岡)  
松澤先生(松)

松: いつもなら新年度が始まってからのいろいろな部活動があったのにコロナで軒並み中止。要するにダンスレターのネタもない。だったら20年の発行以来お初の座談会をやろうと主将に集まってもらいました。

桑: 本当は8月に4年生の引退公演をやる予定でした。準備を始めようとしていた矢先にコロナ禍になって中止に。大学自体が4月から始まらなかったの。4年生が振付けて部員みんなが踊る企画だったので、寂しいです。5月のダンプロ恒例の「ぴちちやぶ」公演がないと決まったので、われわれも出来ないかと。

平: ダンプロがストップしたのは4月入ってすぐでした。3グループが出るんですが、リハーサルも1つのグループが2回やってストップになりました。

桑: そもそも世の中の公演が開催されなくなっていったから、これは無理だなとなり、さあどうしようという感じで、活動ができないなら、授業が始まるタイミングでオンラインを活用し出しました。それでオンライン・ワークショップを始めました。舞踊部は、定期的にワークショップをやっていて、振付をやりたい人や、ワークショップを開きたい人を部員の中から募集します。それで、それぞれの場所でオンラインをやり始めました。

松: 競技ダンスはどうしたの? だって男女ペアでしょ?

岡: まずパートナーを組む電気通信大学の学内には入れなかったの。今も(9月下旬)まだ微妙な状況でずっと活動出来ていません。だから私たちもオンラインでやっています。2年生の夏にペアが決まるんですが、今夏はまだ決められていないです。まず1年生を入れなきゃだめとなり、新入生歓迎会に力を入れていましたね。ニチジョの子は結構経験者が入ってくれるんですけど、提携校の方がまだ一人も入ってなくて。そもそも男女いないと成り立たない競技だから、そこは考えなきゃなと思います。

松: オンラインやるときは自分の家?



岡：そうです。やることが限られてしまいます。だいたいオンラインで1時間から90分。一人なのでシャドーで、基本的なことだけやります。出来ているか出来ていないかがよく分からないまま進んでしまっています。

松：今はさ、部活が復活しつつあるけど、外部は呼べないの？

岡：フェーズ3なら。あと大会があったら呼べます。外部の人には消毒など対策をしっかりとってもらって。

松：ソングリーディング部はどうやって練習するの？

清：やはりオンラインで、体幹とか筋トレやります。普段の練習もそれからやるので。実は3月末と4月末に大会があったんですけど、2月～3月頭に5月延期と決まったので、3月中は練習していました。2回練習やって1週間休んでというのを繰り返していました。75名全員でやります。

松：75名ってどうやってやるの？ ダメ出しとかどうするの～

清：ダメ出しの係がいます。コーチもいらっやっています。オンラインにも入って下さり、短い振付を入れていただいたりとか、基礎練を見ていただいたりとかしました。

松：群舞で一体になってのフォーメーションとかが勝負だけど、それは無いんだ？

清：オンラインではしてないです。今は対面で作品を創ってますが、それまでは毎日基礎訓練を1時間半。

松：モダンダンス部はどう？ 神戸のコンクールは？

山：3月に大会本部から連絡が来て、中止になりました。代わりに、映像出品だったんですけど、元々は5分くらいありましたが、映像は1分半で音楽も著作権フリーで提出しました。コロナに向けた作品に転換して新しい作品を提出しました。4月は全く動いてなくて5月からオンラインで、ソングさんと一緒に、基礎トレやバーレッスンを1時間半やりました。

松：作品創るって、誰かリーダーがいるの？

山：はい。映像の編集は自分たちでやりました。今は、基礎練習を主にして、12月に関東学生舞踊連盟があるので、その練習をしています。参加校は10校で、300の客席数を半分の150席にしてやります。

松：ソングは今後の大会はいつ？

清：11月頭に映像提出です。撮り方が決まっています。ワンショットで、全員入るように。

松：競技ダンス部は？

岡：11月に一応予定されているんですけど、でもまだ会場が取れていなくて。なんか、出来ないかなとも思います。全国の大会は毎年12月20日にやる予定ですが、理事が一応動いて下さっているんですけど、無理かなーと思います。

松：他の大学はどうだった？ 大学によっちゃ、緩いところと厳しいところあるでしょ。

岡：そうですね。うちは結構ゆるいと思っています。

清・山：ゆるいと思う。

岡：まず学校に入れなくて、部活なんてもってのほかって感じです。

清：学外で施設を借りて練習できるように大学に申請してるらしいです。

松：大会がそもそもないっていうのはやっぱりモチベーション下がる？

清・山・岡：(うなづく)

松：お待たせしました、ダンプロ。普段だったら何やってたっけ？

平：自主公が3月にあって、2月終わりには取りやめになりました。その次が5月末に「ぴちちゃぶ」ですが、それも無くなって。

松：しかも振付者が3人とも外部の方で、有名な人だよね。4月、会場の池袋のあうるすぽっとからストップかかったの。

桑：「昼の憩い」もしたいですね。

平：やろうとしたんだけどね！ ダメだった。今後としては、世田谷文学館というところで、小学生の子たちと身体を動かすことをやってたんだけど、それもオンラインでやる。「映画の集い」もやりますね。何か見たいのありますか、ダンプロ以外の人にもリクエストして下さい。

清：アベンジャーズ。

.....

松：じゃあ、これからは何やっていく？ 舞踊部さんは？

桑：この前オンライン健美祭の動画を提出して。次は、2月に舞踊部発表会をやるか否かというのを、これから話し合っていく感じですね。でも、2月ってちょっと微妙なので…

岡：競技ダンス部は、11月の大会の後は、冬の全国大会ですが、なんとも言えないです。

松：ソングは、12月の本選もオンライン？

清：今のところは会場の武蔵野森スポーツプラザでやる方向で話をしています。2メートル間隔になってフォーメーションとかするので、その分人数は減らさないといけません。作品自体が2メートル間隔でやるので。

全：へえ～！

松：それはなんか新しい作品にならないか。面白いよな～。世界はどうなってるの？

清：世界大会は3月に無くなって、今年もまだ何も連絡はなくて、やるかは分からないんですけど、一応日本の予選としては、今までの予選につながる大会というのがあって、それに出て推薦をもらわないと選考されないのですが、その大会が無くなって。いきなり日本代表選考から始まることになります。

松：モダンダンス部はじゃあ関東学連があって、その後は？

山：もう神戸コンに切り替えます。

松：まあ来年はあるよな～。あって欲しいよな～。

桑：舞踊部は、何もパフォーマンスが学校で出来なかったもので、説明会をオンラインでやって、1年生にも体験ワークショップに参加できるよ～と勧誘しました。

松：それで、部費は取ってる？

桑：前期は取ってないので。後期で取るとしても1000円は取れないです…

平：ダンプロは、心意気、ワンコインで500円です。

岡：競技ダンス部は、普段は毎月2000円取ってるんですけど、オンラインなので取ってないです。

清：ソングは、毎月4000円です。

全員：へえ～！初めて知った！

清：4月まで何にも活動していないので、それまでは無しで。オンラインになってから、月1000円くらいで1回集めて。夏休みから4000円に戻しました。

松：だよな～。やっぱり活動していないのに部費って取れないでしょ？ 気使うよな。モダンダンス部は、今は完全に復帰してるんだっけ？

山：はい。学校再開（6月くらい）からです。部費はその期間までは取らなくて、6月からは月1000円でやっています。でも積立金は取っています。前期に6000円、後期に6000円で、中野で公演があるので、それに回します。

松：舞踊部は新入生 60 名。競技ダンスは？

岡：5 人で、いつも通りです。

清：ソングは 30 人入りました。いつもより多かったです。学友会の方で公式Instagramを作って下さったので。でも私たちは一応 SNS を禁止しているので、部活としてインスタを作るのはどうなんだろうという感じでした。ネット上に載っちゃうのがよくないので。

松：面白いね～。要するに、積極的に宣伝はしなかったけど、30 名来た。

山：モダンダンス部は 8 人です。説明会はオンラインでしました。モダンダンス部の公式アカウントも作って、学校再開と同時に体験 OK にしてやりました。

平：ダンプロは結局何もやってないです。(笑) 質問ある方は公式インスタの方をお願いしますという感じで。それでも 23 人入部しました。あっ、言い忘れていました。水身(水と身体)。さよなら旧プールを 8 月のど真ん中でやりました。旧プールを壊すので。でももう水は入れられないから、水浴びみたいな感じでやりました。40 度超えるから、外へ出ると涼しいんです。

松：じゃあ最後に一言ずつ。何が変わった？

桑：オンラインで出来るようになったことによって、今まではあったけどやらなかったのに、部活以外のミーティングとかも、わざわざ会わなくても出来たりとか。そこが一番変わりました。

岡：競技ダンス部は、結構男子が仕切っていて、女子の主将はほとんど働いていなかったの、ニチジョだけでやらなきゃいけない状況になって、今までなかった仕事もするようになりました。

平：ダンプロは結構外部が絡んでいるので、それらの活動がなくなって、休めました。(笑)  
みんな、授業も初めてのオンラインで大変だったじゃないですか。部活のことは置いておいて、授業に集中できたんじゃないでしょうか。

松：自分を考えるいい時間になったってことか。

桑：でもそれが結構、創作作品とかにも出ましたよね。思ったんですよ、結構。研究室とかの創作発表とか見ていると、「自粛期間中に考えたことがあって～」とかみんな言うから。

清：ソングは今まで、直接(対面)だから出来ていたことを、対面じゃない状態でやらなきゃいけないっていうのが、大変でしたが、今まで直接パッと言えていたことを、今は伝え方を工夫して考えてやらなきゃいけないことが増えました。大変だったけど、「人を動かす」ということについては勉強になりました。

山：モダンダンス部は映像で作品を出すことが初めてだったので、メディアのやり方について技術的に知ることができたのが良かったです。あと、大会とかが無くなってモチベーションが下がるじゃないですか。その上げ方が大変でした。やっぱり基礎が中心で、その大切さが分かりました。そして作品の傾向も、神戸作品の時もそうでしたが、明るくなりました。コロナ禍だけど頑張ろうっていう。コンビネーションとかできないので、そういうのは減らしていつて。だからまた新しいものができると思います。

松：コロナは大変だけど、そのハンディを活かして、新しい発見があるといいね。あるいは、再確認のきっかけになればね。逆境を利用しなくちゃ。ダンプロは普段から忙しいから、まあ休めたってことか。

こんな機会が出来たこともコロナゆえか。貴重な話が聞けて面白かったです。ありがとうございます。

## 編集後記

3年 中田未来 古谷美咲

最後までご覧いただきありがとうございます。ダンスレター編集担当の3年中田、古谷です。

今回のダンスレターは、前期以上に学内活動における工夫と挑戦の姿が垣間見える内容だと感じています。今もなお続く新型コロナウイルスの猛威により新しい活動の形を求められる中、ダンスにおいてそれは人と人、身体と身体の生身の繋がり合いを否が応でも断ち切らざるをえなくなってしまうという、あまりに難しい問題であるように思います。そんな制限を抱えながらも、活動することを諦めないニチジョの学生や先生方の姿勢は素晴らしいものであると、編集作業をしながら改めて感じました。

私たちもこうして言葉を介し、学生の活躍を伝えられることを嬉しく思います。今後ともダンスレターをよろしくお願いたします。

<NEWS>

### 第19回 舞踊学専攻 卒業公演

2021.1.19(火) @ 配信会場：府中の森芸術劇場どりーむホール

※今年度は、インターネットでの配信公演となります。  
詳しくはHPをご確認ください。

発行

〒157-8565 東京都世田谷区北烏山8-19-1  
日本女子体育大学 ダンス学科

発行日：2020年12月6日

<http://www.jwcpe.ac.jp/>